

明日へつなぐ

岡山ボランティア考

《7》

6433人が犠牲になった阪神大震災はあす17日、発生から10年を迎える。この間、ボランティアを取り巻く環境はどう変わり、どのような課題が残されているのか。

× ×

AMDAの菅波茂代表(58)はボランティア元年と呼ばれる阪神大震災を「県境や国境を超えた個人ボランティアが根付く契機となった」と振り返る。そして、その後の岡山でのボランティアの盛り上がりについては、大きく二つの要因をあげ

る。それは、94年から10年間、世界各国のNGOを招いた会議や子どもサミットなどを毎年開いてきた「国際貢献トピア岡山構想を推進する会(ト

課題

進する会)トピアの会」の活動と98年のNPO法の施行だ。この10年でAMDAの活動も広がりを見せ、昨年末のスマトラ沖大地震では2日後から海外支店スタッフが現地に入り、ネットワークの機動力を裏証した。「20世紀の豊かさの指標は金だったが、21世紀は時間。仕事以外の時間を利用して

「ピアの会」の活動と98年のNPO法の施行だ。この10年でAMDAの活動も広がりを見せ、昨年末のスマトラ沖大地震では2日後から海外支店スタッフが入り、ネットワークの機動力を裏証した。「20世紀の豊かさの指標は金だったが、21世紀は時間。仕事以外の時間を利用して

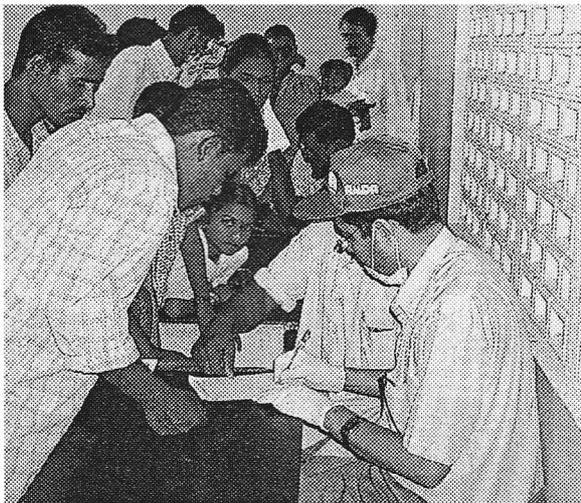
「ピアの会」の活動と98年のNPO法の施行だ。この10年でAMDAの活動も広がりを見せ、昨年末のスマトラ沖大地震では2日後から海外支店スタッフが入り、ネットワークの機動力を裏証した。「20世紀の豊かさの指標は金だったが、21世紀は時間。仕事以外の時間を利用して

行政と民間 手を携え

築いた人間関係の多様さが豊かさのシンボルになる」と語る。05年度中にジュネーブとニューヨークに事務所を開き、国連とローカルNGOとの橋渡し役を務めていく方針だ。

「行政を動かす人間も被災者。広域災害では、行政がまひするのは当た

インドで巡回診療にあたるAMDAスタッフ。スマトラ沖大地震では海外支店の迅速な救援活動で、ネットワークの大切さが裏証された(AMDA提供)



すれば、ボランティアなど外部からの支援にシステムごと委託することは可能。そのためには日ごろの情報収集と信頼関係が重要だ」と語る。

県は02年度から災害ボランティア・コーディネーターの養成講座を開いており、現在までに約120人が登録。03年には災害時に県内の15大学からボランティアを派遣する協定を締結し、来年度からは災害時の外国語通訳などの専門ボランティアの登録・研修も検討している。

話した以上のことを、1週間ですんで帰ってきた。96年から毎年、学生を連れて大阪市西成区のあいりん地区で路上生活者への炊き出しボランティアなどに取り組んでいる。「ぎっくかけは何でもない。ボランティア体験を生かすか殺すかは、帰った後の指導にかかっている」と語る。

阪神大震災後、福祉ボランティア学科と大学ボランティアセンターが設置された吉備国際大。塚田健二教授(60)は震災時、県社会福祉協議会の職員として現地に入った。同大学では鳥取西部地震(00年10月)、芸予地震(01年3月)など近隣の災害や昨年の台風

「行政を動かす人間も被災者。広域災害では、行政がまひするのは当た

阪神大震災10年

【野村房代】